

第3回香南市産業振興計画策定委員会

— 議 事 録 —

■日時：平成26年2月28日（金）

13：30～15：30

■場所：のいちふれあいセンター2階研修室

■出席者

○策定委員会委員

受田委員、西村委員、野島委員、竹内委員、北代委員、中内委員、松山委員
國沢委員、野中委員

○事務局

田内氏、浜田氏、益永（オオバ）、湯浅（オオバ）、小林（オオバ）

○オブザーバー

清藤市長、近森氏（県）

【次第】

1. 開会（進行：事務局）

- ・委員長あいさつ
- ・事務局連絡事項

2. 議事（進行：受田委員長）

議事（1）	香南市産業振興計画の策定について 1.香南市産業振興計画の目標
--------------	---------------------------------

■事務局

～資料1 香南市産業振興計画の目標について説明～

■委員長

- ・資料1のP1に関しては復習と捉えていただき、P2.3については、まちづくりランドデザインの検討委員会の中で出てきた内容になる。資料2・資料3と説明と議論を進めていくことになる。
- ・特に資料のP2にあるランドデザインの産業基盤のまちづくり方針の中で沿岸地域のような例があったが、これまでとは違う地域の捉え方をしてみると、内陸や高台に移転した後の跡地利用を産業から見た時にどう考えるか。産業振興から見た時の新たな視点になると思う。
- ・資料P4にある市計画の基本事項、産業振興計画の表現方法について意見を賜りたい。

<質疑応答>

■委員

- ・資料P2①の「農地と宅地の調和を図る面的事業整備の実施」について。夜須町に関しては、上夜須より以北は農業振興地域で地目変更の許可がないような地域であり、北部は優良農業地域として引き継いでいかないといけないが、耕作放棄地も多い。今のままでは家も建てられない。これをなんとか緩和してもらいたい。上夜須以北は津波がくるような地区でもないのに、耕作放棄地を津波の高台移転先や避難場所にするにはできないか。
- ・夜須から野市支所まで広い道路があるが、夜須から香我美支所に抜けるのにトンネルもなく、

時間もかかり運転も大変である。この線は出荷場を結ぶ安芸から南国までの広域農道の計画だったらしいがまだ出来ていない。道路整備は今後行うのか。

■委員長

- ・グランドデザインの方針ということで立てられたものについて、まず、1点目の質問である夜須の北部上夜須の地目変更の可能性はあるのかという質問について、回答をお願いしたい。

■委員

- ・農地、農用地及び集落の扱いについて、市街地と混在する農地との解消をするべきであり、その他の集落地区においても同様の問題があるように認識はしている。
- ・香南市としては、これからも優良な農地は増やしていく方向であるということ。農地を阻害する宅地化は抑制していきたいというのが基本方針である。
- ・農地を守るためには、そこで営農する担い手が必要でありそれは集落であるということも認識している。人口減少も大きく第一次産業に影響を与えるということもあるので、集落が活性化していくという視点での整備も進めなくてはいけない。
- ・集落については、新しい優良な農地を作りながら、なおかつ営農が出来るよう、高台移転や要配慮者施設、高齢社会に向けた施設、地域の方々が豊かな日常生活をおくるための利便施設など、山間集落の整備をして宅地との混在が解消するような整備費用は考えなければいけない。
- ・集落活性化ということで、一定のエリア内には、総合的な機能を持つ持続可能な集落地を作りたい。
- ・道路については、香南市の幹線道路を作りたいと考えている。ここでは特に産業軸として各産業が連携し、さらに力強い基盤になるような交流軸をつくるべきであろうということで、旧5町村を有機的に結びつけるような、活性化軸を提案している。
- ・活性化軸は、はっきりとって道路になるべきだと思っているし、拠点整備と一緒にやっていく方法があるということで、手法についてはまだ十分に検討しきれていないが、産業軸としてしっかりした、骨格・連携した交通網にしたいと思っている。

■委員長

- ・現実にこれをどのように実行していくか、もっともっと議論を重ねていくことになると思う。

■委員

- ・資料の P1 左下の「香南市のグランドデザイン」の図の中で、土地の分類、用途での分類と地勢的な分類で重複が出ている。資料 P2 を見ると、赤岡町は沿岸地域であり、商業地であり、観光地でもあり、農地もあるという状況になっているので、グランドデザインの中で調和をもちながら計画を立てていかななくてはいけないのではないかと。例えば住居なら高台移転になじむが、商業地や観光地ともなれば、なかなか高台移転はすぐできないというのであれば、面的整備が良いと思う。グランドデザインがハードと見るというのであれば、ハード面からも考えていかないといけないし、産業振興の観点からみれば地域おこしが必要という思いがある。
- ・資料 P4 右側の「香南市産業振興計画」の中で、バランスのとれた産業構造として、就業人口と従業人口が整いと両方表記されているが、それぞれに定義があるのでどのような理由で両方載せているのかを確認したい。

■委員長

- 1つ目の質問については、まちづくりグランドデザイン検討委員会の内容なので、すぐに回答ができない部分ではある。この図はシンボリックに表現していることなので、用途と地勢から見た場所と二重で表現されているというのはご指摘とおりである。イメージ図であるので、ゾーニングも含めて目的別についても分類棲み分けをこのような形で進めていこうというものである。
- 赤岡地域についても、沿岸地域の新たな産業創出の場ということで、高台移転について今議論しているのは要配慮者施設などを含め、優先順位を高めて内陸への移転ということは話題になっている。住居についても特定の地域でモデルケースを作って議論を始めているが、そういった意味でもいろいろなパターンが考えられる。赤岡地域については商業的に魅力のある地域として、今の状況も今後も含めて拠点整備が必要である。内陸移転も重ね合わせながら是非この場所の魅力価値を最大化していただきたい。重複はあるという結論である。
- 2つ目に関しては、副市長から。

■委員

- ご指摘のあった、目標設定の計画全体を貫く目標の部分については、次ページの「計画全体を貫く目標①バランスのとれた産業構造として、就業人口、従業人口が整い、住と職がバランスよく、住みながら働く場、雇用の確保ができる」というところから抜粋しているものである。
- 香南市の就業人口は、高知市、南国市のベッドタウンのような位置づけがあり、データの中でも昼夜間人口の数が、高知県の中でも占める割合が少ない。夜は多くの人がいるが、昼間は働きに出て行って少ない。住みながらも働く場も整えながら、住と職のバランスのとれたという意味合いである。
- 就業人口と従業人口の文言について、深く掘り下げて訂正が必要であれば図っていききたい。

■事務局

- 就業人口（市民）と従業人口（市民外も含む）の文言についてそれぞれ定義があるので、整理して並べているのか、一つの言葉にするのかということか。

■委員長

- 今のご指摘は、市民が見た時に分りにくいということなので、それぞれの定義を特記しておくというのも一つのやり方なのかとも思う。
- 他に質問がないようなら、一旦次に進めさせていただくことにする。

■事務局

- ～資料2 香南市産業振興計画の骨子(案)、
資料3 分野別産業成長戦略の主な取り組みについて説明～

■委員長

- ・資料2.3をまとめて説明したが、まずは資料2にもどって意見交換をしていきたい。
- ・資料2は今後の香南市の産業振興計画がどのように向かっていくかという大方針を明記しているので、非常に重要であり、皆さんと共有をしておかなくてはいけない内容である。十分に煮詰めているとは言えない状態ではあるが、意見をいただきこの委員会でのコンセンサス近づけるところまでもっていきたい。

<質疑応答>

■委員

- ・産業成長戦略の中で、農業から住宅分野までであるが、農業～観光までは事業実施主体が民間で、市や行政は支援をしていく形になるのだと思うが、住宅分野については、市営住宅の住環境整備等と市が主体となるものの記載になっている。民間の事業者が行うものについても入れるべきではないか。これでは、市だけが行うのだと誤解されてしまう。

■委員長

- ・補足すると、この後、資料3各分野についても議論をしていくが、その内容を固めたうえで、この箱に入れていくということになるので、時間をかけて議論していく内容になると思う。先ほどのプレイヤーがどこになるのかという視点は重要なので反映していただきたい。
- ・先ほどの委員の指摘からいくと、成長戦略というのは、行政主導で進める振興計画(資料に記載のある)も違和感が生じるので、この辺もどう表現するのか、作り方、見せ方含めて意見を頂きたい。

■事務局

- ・現在市としては、産業成長戦略についてはどちらかということ、これまで行政が進めてきた事業をより活性化して進めていこうという形で記載をしている。その中にプレイヤーとして民間も入ってきているという指摘なのか。

■委員長

- ・記載方法が統一されていないので、いろいろなものが横並びになっているのに違和感があるということであるということである。

■委員

- ・資料3を見ればわかることではあるが、記載方法についてのバランスの問題である。

■委員長

- ・2年後と8年後ではずいぶん目標が違う。2年後は現在の施策が並んでいるので行政的な目標が出てくる。ここは行政主導による振興計画になると思う。8年後にいくと成長戦略のポイントということで、行政だけでなく、民間あるいはいろいろな組織の方々がプレイヤーとして入ってくる。そうすると、行政主体の振興計画というタガが外れる。ということで、すわりが悪い、その点を留意して欲しいということである。
- ・資料2についていろいろ意見をいただいているが、具体的な内容については資料3となるので順次意見を頂きたい。

■委員

- ・資料3に入って、8年後というともピンとこないところがある。ポイントを見ていって
も的を得ていないのではないかという点がある。

■委員長

- ・前回の意見がどこまで反映できているのかというもかかっているが、いろんな人の意見を
もらわないといけない。8年後の目指す姿は、こういう数字で妥当なのか、あるいはまちづ
くりや他産業と連携した農業で所得をどうやって増やすのか、どれだけ増えるのかという、
具体的な数字が出てこないと迫力がない。
- ・耕作放棄地をどうするか、農業の生産性をどう高めていくか、農業に関わる雇用をどれくら
い数値目標を立てていくのか、耕作放棄地をどれだけ耕作地に変えていくのか具体性が出て
くるとそれに向かって、どうやって成長戦略のポイントにおいていくのかというところに落
とし込まれていく。所得の件についても、お金につながるような話が二つ並んでいるのでし
っかり繋がっていない感じをうけるということである。

■委員

- ・所得、販売額、面積といった目標数値がはっきりしていない。
- ・認定農業者数だけでは、どういう農業の姿なのか見えてこない。
- ・はっきりと数字が出てくると、成長戦略のポイントが見えてきて、8年後につながるのでは
ないか。

■委員

- ・ご指摘のように私たちもそれを目指してやっていかないといけない。現状がこのような状態
であるということと、将来の目標数値が良く見えてこない、捉えきれていないというのは行
政政策の反省点である。
- ・足りない部分を表現し、来年以降、市民が共有できる産業振興計画にしていきたい。

■委員

- ・2年後の目標は具体的で分かりやすい。8年後は情緒的、感覚的になっている目標でとても分
りにくい。2年後の目標がそのまま8年後にスライドしても良いのではないか。

■委員長

- ・顕著に進んでいるというものはあるが、前回の意見にもあったが8年後の夢が描かれていない
ということである。ここで、留意いただきたいのは、先ほどの資料2の計画全体を貫く①と
②とどう整合が図れているかということ。
- ・住と職のバランスがとれて雇用の確保もできる。一次産業が基盤であるということは先ほど
も補足したが、資料2の②に記載されている目標について、それを支える一次産業としての
農業分野は8年後にどう担っているのかがないと、全体が繋がらない。
- ・ただ、現状その点については明確な目標を掲げるに至っていない。これは、全部を貫いて同
じことが言える。
- ・ここで結論を出してパブリックコメントとして市民に投げかけて、多くの意見を求めるよう
に策定委員会として進めていくのか、パブリックコメントをもらうたたき台としては、関係
する方々がより意見を反映して、8年後の姿を数値的にも盛り込んでいくのか。とるべき方
向としては皆さんへ問いかけをしたい。まずは農業分野であれば。

■委員

- ・高知新聞の記事で、県の2014年度の予算は農業者にとってはうれしい施策であると思う。

特に、四万十町への大規模な施策については、おそらく炭酸ガス発生装置を使ったハウス栽培の施設が16年度から行うということ。

- 高知県のトップランナーは力強い言葉である。物部川の基盤整備、農道整備これは従前型の政策であり大切なことである。高収量、高品質への取組強化について、これは県の政策と同じようにオランダを参考にした試験の成果が平成17年度から18年度に出ると思うが、それに負けないような気持ちで香南市も取組んでもらいたい。例えば、作物によっては炭酸ガス装置を使うことによって倍の収穫量があるなどということもあるので、その助成なども視野に入れていかないといけないとか、そういった具体的なポイントを高収量、高品質への取組強化に記載するのか、それともおおざっぱな形にして広く革新的な意見を求めるのか、その点は問題になると思う。
- 基盤整備については、みかんを栽培しているが、耕地整備で1/3、1/4の労働力で済むようになった。果樹産業は西の方が進んでおり、東部の方は土地の問題もあり、労働の生産性は劣っている。例えば、太陽光発電と併せた農地開発、宅地開発といった、いろいろなアイデアを含めて進めていくのも一つの方法ではないかと思う。
- 木質ペレットを活用とあるが、住民が循環型農業についての関心が高い。夜須の方は山間部もあるので、連携し合って材料・材木の共有をお願いしたい。

■委員長

- 木質ペレットの農業への利用ということに触れたので、林業と連携した事業をとということにさせていただく。
- 高収量・高品質に関連しての意見があった。成長戦略のポイントである生産性の向上というのが、高収量・高品質といったところに反映されているのではと思う。
- トップランナーを目指すポイントや、目指すべき方向が見えていないのはご指摘の通りであり、もっと書き込んでいかななくてはいけない。
- 基盤整備についても、より理想的な形を含めて提言できれば、より将来を導いていく貴重な材料になると思う。

■委員

- 目標というものが農産物を作るだけでなく、高収量・高品質の強化それは何のためにやっているのか。所得を上げていく、販売を強化していくための目的であり、そういうものを作っていないと販売は強化できないので、ものづくりが中心にないといけないのではないかと。地域物産品の販売強化という言葉がどこにもない。加工という中であるのかもしれないが、私たちが目指すものは、地域特産品、ブランド品という生鮮食品を販売していくという戦略をもって所得を上げていく点を、この中に落とし込んでいくべきでないか。
- 所得が上がらないから農家の担い手が育たないという現状もある。主力品目は県外への販売を中心にして所得を増やしていくという一方で、地産地消推進協議会の対応も含めて、将来は統合給食センターでの地産地消という目標があるが、具体的に市やJAでも呼びかけて供給できる仕組みは、どのようになるのか。農家が作った安全安心なものを子どもに供給したいという話が出ているので、ブランド品と別に、休耕地、遊休地で農作物栽培をして給食センターが買い取ってくれる仕組みを作ってもらえるのか。また栽培方法についても手がけていかななくてはいけないと思う。単語だけでなく連携の方向性が示唆されていないとわからない。

■委員長

- ・地域で稼げる農業という言葉は良いが、その間の内容が具体的でなかったり整合性がとれてなかったり、方向性が明確でなかったりしているので、ポイントが書き込めていないところがある。
- ・香南市の持っている価値を最大化するということは、耕作放棄地があってはいけないということ。より生産性の高い環境づくりで整備をしていって、価値の最大化を行っていく。それが、耕作されている方々の収入にもつながっていく。そのためには生鮮での高値での販売、流通経路の確保、加工の件も入ってくるが、全体として、地域で稼げる農業に向かっていく。その目標もあって、数値目標があるのが望ましいということである。
- ・農業については熟度が十分でないというのが、農業の方々のコメントから感じるところである。
- ・熟度が上がっていないと感じられる分野が他にもあるかどうか、農業から林業に話を移すことにする。

■委員

- ・林業の現状については、ここに表記されている内容で正しいと思う。
- ・振興策の中で気づいた点について。生産性向上について、このベースにつながるものが、作業道路の充実（路網の充実）、高性能林業の機械化、人材育成、この3つが整っていないと生産性向上につながらないので、これを中心にもってきたほうがよい。路網や機械化については補助事業の取り組みもあるが、人材については、人づくりというのがしっかりとしていないと生産向上にはつながらない。
- ・ヨーロッパと日本の比較になるが、ヨーロッパでは林業での路網密度は非常に高く、高知県が非常に低いのが生産性にも響いている。高知県では1haあたり25mくらい海外では100mくらいで計算をしていくと、ヨーロッパでは人工林でも4200くらいある路網密度がある。路網密度そのものを上げていくという手法がないと、生産性の向上にはならない。
- ・森林経営計画制度について、現況1計画40haということだが、高知県が進めている森の工場というのがあり、夜須北部と舞川地区で12,050haの計画がある。このあたりとの兼ね合いをどうしていくか。
- ・水源地が2つにわかれているので、特色もある。物部川流域では上流にダムへの支援を県から受けているが、取り組みとしては十分でない。

■委員長

- ・県の林業振興・環境部が計画していることと、それに対する要望も入っていたと思う。
- ・路網整備については、県の産業振興計画の当初からずっと議論になっているし、それが進んでいない現状があるので、現場では実感がないということである。
- ・市独自で産業振興計画の林業分野となると、県産材使用の住宅の普及とか公共施設での県産材の利用促進などが盛り込まれているので、CLTを市庁舎の建築にという一番言いタイミングであると思う。建築基準法の改正をにらみつつ、このタイミングで市独自で行っていくというのが、ここに入ってもいいと思う。県と市の棲み分けをどう考えるかが悩ましいところである。

■委員長

- ・新エネルギー対策を中心に香南市がやってくるが、林業の素材（間伐材）が安く手に入

っておりその分安く供給できているので、新エネルギーの素材にしていこうという議論があったが、森林組合にしてみたら、そんなコストでは到底供給できないという意見もあったが。

■委員

- ・バイオマスエネルギーについて、高知県で大きな施設が2ヶ所動き出す。年間10万m³発電するというプロジェクトが始まっている。山から安定的に材料を供給しなくてはいけない。一番大事なのはコストの問題であり、最終的には山にも還元できる仕組みを作らなくてはならないということであった。発電施設については、買取価格制度があり非常に有利であるので、事業化できるということ。
- ・海外からの原料ではなく地区内の資源活用をしたいという意向もあり。買取制度という出口での安定供給があれば、安定的にできるのではないか。

■委員長

- ・ネックになっているのは、区域内の路網の整備であるということにいきつく。
- ・コストが下がれば活用の道ができるので、それをトータルにどのように域内でビジョンを描ききるかということになる。
- ・ネックになっている部分を解決するために、県とどのようにしていくのかにかかってくる。

■委員

- ・森林組合としても間伐をしていっても、組合員がもっている木材ならできるが、民間のものまで立ち入りができないので、これも林業振興のネックになっているのではないか。

■委員長

- ・権利の問題は遅くなればなるほど、それが所有者の分散化ということで、問題も生じてくる。振興のネックにもつながるということになる。
- ・林業についても作り込みが必要であるということ。林業にとって8年後は短期的な期間でもあるので、もう一段階細かい書き込みが必要ではないかと感じる。
- ・林業については、課題が山積であるという意見がわかったので、水産業分野に話を移ることにする。

■委員長

- ・資料のP3にある 凡例の10番の吉川、赤岡、手結、住吉のポイントに青く塗られている部分を水産品並びに観光漁業の活動拠点にしていこうとしているので、水産業の中で8年後はどのように展開をしていくかということになる。
- ・観光業ともつながっていくので、その点も含めて8年後の姿が資源開発と経営力の強化により稼げる水産業になるのか。現実的にどうすれば稼げるようになるのか、産業振興計画としては盛り込んでいきたいところである。
- ・意見がないようならば、次の商工業分野へと話を移ることにする。
- ・商工業分野については、8年後の課題は「ものづくりからの雇用拡大と地域の賑わい創出」という形である。どのように雇用を拡大していくのか。これがないので、伝わってくるものが弱いのかと思う。
- ・2年後までは、香南工業団地の誘致によって雇用が拡大するというのは、現実味もあって、明確な目標である。商業についても並列にならべてあり、雇用や賑わいについてどのようにしていくのかが書ききれていない。
- ・観光分野については、「地域の魅力が人を誘う、世界に通じる観光産業」とあるが、この世界

という言葉はどこが根拠となっているのかが見えていない。高知県のトップランナーになるということは高知県でフロントランナーになる。そのことが世界に通じる観光産業としての訴求力をもちうるということになるのだと思う。

- 外国人観光客を1千万人、3千万人にしようとか2020年に向けて、東京オリンピックの話と結びつけてというのが書かれていないので、それらとどう結びつけていくか、というところが見えていない。国の施策との連携等が見えない。それが世界につながるということにリンクする。
- 将来の取り組みで「体験型滞在型観光資源づくり」があり、山北の地域の話があるがここは農産品加工品販売のゾーニングになっており、これが体験型観光にも結びつくことができる。
- 例として、三重県にある手作りモクモクファームなども香南市の目指す観光イメージとリンクしてくる。体験型滞在型観光を農業、あるいはブルーツーリズムということで水産業と合体させることも可能ではないかと思う。

■委員

- 三宝山の活用とあるが、これはどういったことなのか。動物公園とセットで活用をして、北にはアンパンマンミュージアムもあるので、このラインを一本化して観光ラインにすることはできると思う。
- 河川敷の利用も考えてもらいたい。河岸段丘にはグリーンベルトがつながっており、散歩コースや少し整備すればサイクリングコースにと抜群な環境であるので、ランドデザインに含まなくても活用を考えていただきたい。

■委員長

- 観光資源はあるということで、これをどう活かしていくか。香南市としてこれをどうパッケージ化していくか、ターゲットをどうするかというのを考えてもらって、この中にうまく織り込んでいき、この線的・面的整備を行政としてどう取組んでいくかと考えると大いなるチャンスである。

■委員

- 三宝山を香南市が市民とともに活用していこうという動きが出ているのはチャンスだと思う。香南市は小さくてもキラリと光るものがたくさんあるわけですから、それを結ぶだけでも大きな観光資源になるということ。
- 行政として、ここに出ている話を今後どのように重視していくか、その重点政策はどのように結びついていくのか、検討していかななくてはいけない。
- 具体的な内容や数値を含めて施策を取りまとめていく必要がある。

■委員

- ボランティアの育成をしておかないと、観光をうたっていても観光客が困る状態になるのではないかと思う。

■委員長

- ヘビーリピーターの拡大から見えてくるのは、香南市を観光の拠点として掲げるとすると、それについての明確なサービスマーケティング戦略が必要である。その視点が全くない。例えば、東京ディズニーランドを学びの教材にしてみると、マーケティングの戦略が見えてくる。そこまで、やる気なのかどうか問われているのだと思う。
- 域外の方へのマーケティングと同時に、インターナルマーケティングの重要性というのが言

われていて、香南市の市民がこの観光地をどういうふうに位置づけ、誇りとして捉えているのかというのが絶対にないと、リピーターの比率を上げることはできない。そこまでこの中に盛り込んでいけば、観光要素も含めてあるものが線的・面的につながっていく。

- ・河川敷も含め、サイクリングロードも海から山まであるわけなので、つなげていけば資源として魅力的ではないか。

■委員

- ・香南市は県下有数のフルーツの産地である。山北みかんなどといった、食材を県民の皆さんに食べてほしいので、そういったものが供給できる場所、例として「ひろめ市場」のような場所が必要である。
- ・核となる観光拠点の中に「のいち動物公園」の名がない。多くの方が訪れる観光地でもあるので、見て帰るだけでなく、実際に食べて帰ってもらえるように、香南市にお金を落としてもらえようように展開できないか。

■委員長

- ・産業分野横断で、これだけのメンバーが集まって、ゼロベースで将来を見据えながら大きく展開をしていく、ということはなかなかやれていないということである。
- ・観光というのは全ての分野の発表会である。全ての分野が一丸とならないと、発表するものも魅力的なものにならない。そして、域内の方々が魅力に感じているというのがセットにならないといけないので、産業振興計画において、議論すべき内容が上がってきていると思う。
- ・このまま、パブリックコメントを求める材料としていいのか。落とすところをどうしていくのか。

■課長

- ・2年後の目標はおおむね了解をいただいたものであるので、ここまではパブリックコメントをとり、8年後の姿、成長戦略についてはもう少し議論いただく方向でいかがか。

■委員

- ・自動車道ができることにより、人の流れも変わってくる。その時に香南市が通り過ぎる街にならないように、人の流れを香南市へもってくるかというのを、農業分野から住宅分野まで連携していけるような議論や取り組みが必要ではないか。
- ・分野ごとに成長戦略を議論しているが、横のつながりをどこでつないでいくか、それによって香南市は資源があるように思う。横のつながりの中で、見えてきていると思う。それを大きなネットワークにしてから、香南市の産業振興計画を市民に出してみてもどうか。最後は市民主体で築き上げることにかかってくる。行政が戦略を作ってもそれに市民が乗ってくれないといけない。産業連携の中でそれが見えてくるのが望ましい。例えば、食で結びつけてほしい。そうなればその中で良さを出していき、香南市を魅力のある街にしていきたい。

■委員長

- ・連携ということについては、資料4に「分野を超えた連携テーマと地域活性化の実現に向けた課題及び次年度からの取り組み内容」というところにあるのだが、今日はそこまで、話ができてないのと、重要なご指摘でいただいたのは産業ごとに並べてみると、横のつながりが活路で、将来の可能性が見えているのではないかということではないか。
- ・たぶんこのままでは、2年後までの目標の中で、パブリックコメントをもらうには厳しいのではないか。

- ・パブリックコメントがアライヴづくりになって、何も言わないことが同意したとにならないように。いろいろな意見を持っていることもあるので、パブリックコメントが目的化してしまうと、さまざまな労力や時間を使うわりに、得ることも少ないのでは。提案するのは材料も含め、もっと踏み込んだ理論的なものを出していくのが良いではないか。
- ・今後取扱いをどうするかについて、意見をいただきたい。

■委員

- ・現状は、まだまだ十分細かいところまで検討しきれていない。問題点や課題をしっかりと出し、来年度以降一步一步、市全体を産業振興に向けた重要なテーマに絞って行きたい。内部調整も必要だが、本年度はたたき台を作ったということで、香南市はこのような産業振興をやっていきたくて来年度に議論してもいいのではないかと思う。
- ・これで市民の皆様にご意見を求めるという委員の皆様からの総意があった時点で、来年度の新しい産業振興をパブリックコメントの対象にしたいと思う。

■委員長

- ・説明責任ということで、今の状況を資料として市民の方にもオープンにし、パブリックコメントという形で一定の期間とってということではなく、この進捗状況で今の市民の皆様からご意見があれば、それは積極的に市としても受けるということでいかがか。
- ・オーソライズされてなく、全てが承認されているわけでもない。今日の議事録も添えて市民の方々に見ていただく形にする。これがまず第三回目までの進捗状況。
- ・年度が変わってからは、市としても市民の皆様からいただいた意見をもとに練り直していただく。ここの委員だけでは担いきれないということもあるので、プレイヤーの方々が担い手として意見を出し合って議論をしたほうが良い。
- ・今日も具体的な意見としていただいているので、それが反映できる仕組みをまた来年度考えていただく。

■事務局

- ・今日の意見を3月末までには反映していくようにする。

■委員長

- ・委員の皆さんは最後まで資料をみていただき、明らかに訂正が必要な場所、意見などを事務局へ提出をする。それを一度修正案として、市民にはこれを提示する。来年度以降については、市として考えていくということで、今日の意見を十分に反映していただきたい。

■委員

- ・3月末までに取りまとめて、4月以降に市民の皆さんへお知らせするということなのか。

■事務局

- ・今回の修正案ができるのが3月末。市民の皆さんへ周知を図るのは4月以降となる。

■委員長

- ・会議の回数が4回から3回となったところに問題があったのかもしれないが、活発な議論が出てくるきっかけがこの委員会を通じてできたように思う。

■委員

- ・熱心な議論ありがとうございました。

以上